診療科紹介

- 診療科 医科部門
- 診療科 歯科部門
- 中央診療施設等
- 院内措置施設等
- 別府病院

小児歯科・スペシャルニーズ歯科

（口腔保健科）

当診療科は第3次医療機関として、一般開業歯科医院（小児歯科専門医院も含む）などの医療機関では対応が困難と判断された小児患者と障がい者（児）の診療に主眼を置いています。また小児医療センターの一翼として、障がい児・者や有病児の口腔疾患の治療と予防にも積極的に努めています。

科長　福本　敏

全身麻酔の診療風景

［得意分野］

成長発育期の新生児、乳幼児、学童児、青少年と障がい者（児）の口腔領域全体の、歯科疾患診断・予防・治療や口腔保健推進管理を行っています。なかでも重い障がいや全身疾患があるハイリスクな患者さんに対する歯科治療（とくに全身麻酔下での治療）、口唇口蓋裂児への哺乳指導や継続的口腔管理に関しては、他科と連携し積極的に取り組んでいます。

［診療体制］

日本小児歯科学会や日本障害者歯科学会認定の指導医・専門医を中心に、より安全な診療を行う体制をとっています。同時に、院内の他診療科や地域の一般開業医と連携をとりながら診療する体制もとっています。

［診療方針］

“親子とともに病と闘い、親子を支援する”をモットーとし、患者さんの基礎疾患・障がい・生活背景を正確に理解するよう徹底しています。そして、全身的な背景（基礎疾患・障がい）と口腔顎顔面領域に生じる疾患との関連をたいへん重視しています。全身管理が必要な患者さんには、精神科神経科、子どものこころの診療部、小児科、小児外科、歯科麻酔科など他科と緊密に連携し、安全に配慮したきめ細やかな対応を行っています。

［対象疾患］

口腔内感染症（う蝕・歯髄炎・顎骨炎・歯周炎など）、外傷、歯列咬合異常、口腔軟組織の疾患、過剰歯、埋伏歯、歯の先天性欠如、歯の形態異常や形成不全症、歯の萌出異常、口唇口蓋裂など［歯並びに対する治療や予防処置の一部などについては、保険診療対象外（自費診療）になります］

［主な検査］

■歯と顎顔面の発育状態のX線検査
■過剰歯と埋伏歯の精査目的のCT検査
■う蝕リスク検査（う蝕活動性試験検査、唾液中抗体価の測定など）
■歯列模型分析検査（自費診療）
■病理組織検査

［主な治療］

■心疾患・悪性腫瘍罹患児の周術期口腔ケア・病棟往診
■障がい児・者の歯科治療と口腔ケア
■口腔内感染病巣（う蝕・歯髄炎・顎骨炎・歯周炎など）の治療と機能回復（冠・義歯など）、予防（口腔衛生管理）
■全身麻酔下または笑気吸入鎮静下での歯科治療全般
■小児の過剰埋伏歯・顎骨のう胞性疾患・口腔粘膜疾患に対する治療
■乳歯や幼若永久歯の外傷に対する治療
■摂食嚥下指導
■咬合誘導（乳歯の早期喪失に対する保隙処置、小児矯正など）
■唇顎口蓋裂児に対する哺乳指導・う蝕予防管理・口唇形成術前の外鼻矯正
■口腔疾患予防システム（一部自費診療）

［学会施設認定］

日本小児歯科学会、日本障害者歯科学会

矯正歯科

（口腔保健科）

歯科矯正治療、すなわち歯ならびや咬み合わせの治療は、咀しゃく能力などの機能向上のためだけでなく、う蝕や歯周病、顎関節症の予防のためにも必要です。最近、顔立ちの審美的な改善、咀しゃく能力向上などの生活の質（QOL）の向上を求めていく上で、その治療意義が高まっています。

科長　髙橋一郎

矯正治療の診療風景

［得意分野］

成長期から成人期にかけての一般的な不正咬合はもちろん、治療が困難な顎変形症や、口唇口蓋裂に伴う不正咬合の治療を行っています。

［診療体制］

日本矯正歯科学会認定の指導医・認定医が専門的な診療にあたっています。口腔外科医や小児歯科医と協力して、顎変形症の患者さんや口唇口蓋裂の患者さんの咬合管理を含めた治療に取り組んでいます。また、現在は休止していますが、毎月2回歯の矯正治療について無料相談に応じており、コロナ禍が終わりましたら再開する予定です。2005年6月開始から1,800名以上の相談に応じています。

［診療方針］

歯科矯正治療は、口元の審美性や表情の生成とも深く関わり、健康で快適な生活を獲得するためにたいへん大切な医療分野ということができます。患者さんに納得していただける治療計画を第一の基本方針としております。治療は大人でも十分に可能です。治療の流れは次のとおりです。

1.初診相談 2.検査 3.診断：患者さんに治療方針、治療計画を説明します 4.実際の治療 5.保定

［対象疾患］

■歯列不正、咬合不全ならびに咀しゃく障害
■顎変形症の矯正治療
■口唇口蓋裂や先天疾患に起因した咬合異常
■顎関節症への矯正的アプローチ

［主な検査］

■頭部X線規格写真検査
■口腔内および顔面規格写真検査
■歯列模型分析検査
■顎運動および筋電図検査
■咬合面圧分布測定

［主な治療］

金属ブラケット（矯正用金具）、審美ブラケット、リンガルブラケット（裏側からの装置）、歯科矯正用アンカースクリュー（歯を動かす固定源として骨にメタルインプラントを埋入）を用いる治療

［学会施設認定］

日本矯正歯科学会

歯内治療科
（口腔機能修復科）

もっとも一般的な歯の疾患である、う蝕を含む硬組織疾患がある歯の修復治療・抜髄・感染根管治療・外科的歯内療法・変色歯の治療などを行っています。当科では、「生涯を通して自分の歯で噛む」ことができるような口腔機能の健康維持に努めています。

科長　前田英史

歯科用実体顕微鏡を用いた根管治療

［得意分野］

■う蝕治療：冷たいもの・熱いものがしみる歯や、う蝕により実質欠損を生じた歯に対し、レジン、金属などを用いて治療を行っています。また、深在性う蝕に対しては歯髄温存療法を併用することにより、極力歯髄の温存を図っています。

■歯内治療：歯髄炎や根尖性歯周炎の診断と治療を行っています。複雑な根管形態に対応するために、歯科用実体顕微鏡を用いて根管治療の確実性を高めるとともに、根尖病変が消退しない症例に対しては症例ごとにもっとも適切な外科的歯内療法を併用することで、根尖周囲組織の機能と健康の維持を図っています。

■歯根破折歯の保存治療：歯根破折を起こした歯の治療は、基本的に抜歯術が適応されていますが、診査を行い保存可能と判断した歯には、接着材料を用いて残す治療を行っています。

■ホワイトニング治療：歯の色に関する悩みに対して最新の機器を用いて診査を行い、漂白法・レジンボンディング法・ラミネートベニア法など、最適の方法を用いて治療を行っています。

［診療体制］

日本歯科保存学会指導医1名・専門医1名、認定医4名、日本歯内療法学会指導医1名・専門医2名を中心に診療体制を組んでいます。

［診療方針］

「なるべく歯を削らない」「なるべく神経（歯髄）を取らない」「なるべく歯を抜かない」を治療方針としています。

［対象疾患］

知覚過敏、う蝕、歯髄炎、根尖性歯周炎、変色歯、歯冠・歯根破折、正中離開

［主な検査］

■X線検査

■CBCT検査

［主な治療］

■う蝕治療：レジン充填、（ハイブリッド）セラミックインレー、メタルインレー

■歯内治療：覆髄、抜髄、感染根管治療

■ホワイトニング治療：漂白法（ホームホワイトニング、オフィスホワイトニング、ウォーキングブリーチ）、レジンボンディング法、ラミネートベニア、ホワイトコーティング

■外科的治療法：歯根尖切除法、ヘミセクション、意図的再植法

■その他：歯科用実体顕微鏡を用いた治療、YAGレーザーを用いた治療

［学会施設認定］

日本歯科保存学会、日本歯内療法学会

歯周病科
（口腔機能修復科）

高齢化社会に伴って、歯周病に罹患している成人が増加しています。歯周病は、糖尿病、動脈硬化、誤嚥性肺炎などに影響を及ぼすこともわかっています。したがって、歯周治療は口腔の健康増進、生活習慣病の改善、生活の質（QOL）の向上に貢献します。

科長　西村英紀

歯周外科手術

［得意分野］

糖尿病や動脈硬化の進行を歯周治療との関連において予防します。また、高度に失われた組織の再生を目指して、エナメルマトリックスタンパク質（EMD）、リグロスを応用した再生療法を積極的に取り入れています。

［診療体制］

日本歯周病学会指導医、専門医、認定医と日本歯科保存学会指導医を中心に、これらを目指す若手医師とで診療体制を組んでいます。

［診療方針］

最先端の診査・診断に基づいて治療を進めます。

［対象疾患］

慢性歯周炎、侵襲性歯周炎、薬物性歯肉増殖症、壊死性潰瘍性歯周炎

［主な検査］

歯周組織検査、X線検査、コーンビームCT検査、口腔内カラー写真検査、顎模型検査

［主な治療］

歯周基本治療、歯周抗菌治療、歯肉剝離掻爬手術、歯肉歯槽粘膜形成術（遊離歯肉移植術、結合組織移植術、歯肉弁根尖側移動術、歯冠長延長術）、ヘミセクション、歯根分割法、歯の再植術、自家骨移植術、歯根切断法

［学会施設認定］

日本歯周病学会、日本歯科保存学会

義歯補綴科
（口腔機能修復科）

義歯やインプラントにより、歯や顎骨の欠損による機能障害や審美障害の治療（オーラル・リハビリテーション）を行っています。咬合の問題や顎関節症に対応します。

科長　鮎川保則

診療風景

義歯とインプラント

［得意分野］

義歯（入れ歯）をはじめとするさまざまな補綴装置を用いて咬合（歯と歯のかみ合わせ）や補綴治療（咀しゃくを回復するための治療）を行っています。う蝕、歯周病、外傷、口腔悪性腫瘍、唇顎口蓋裂、顎変形症などによって生じる歯・顎口腔顔面領域の咀しゃく・嚥下障害、構音障害、形態異常、顎関節症、審美障害に対する診断、補綴装置を用いた治療とリハビリテーションを行っています。

［診療体制］

日本補綴歯科学会の専門医・指導医と、日本口腔インプラント学会の専門医・指導医が専門的な治療にあたっています。インプラント外来、顎関節症外来、顎顔面補綴外来、睡眠時無呼吸症歯科外来、スポーツ歯科外来を実施しています。初診時には検査・応急処置のみとなる場合があります。インプラント治療は、相談時から健康保険の対象外となります。

［診療方針］

単なる患歯の治療だけでなく、各診療科と連携しながら一口腔単位で総合的な検査を行い、治療計画を提示します。補綴治療は治療期間が長く、保険外治療を含めて治療費が高額になる場合が多いので、明確な説明を行い、治療に同意を得た上で診療を開始することを基本方針としています。

［対象疾患］

う蝕、歯周病、外傷などによって生じる歯・顎口腔領域の咀しゃく、嚥下、構音などの機能障害、審美障害、形態異常、顎関節症や口腔顔面痛に対する診断、補綴装置を用いた治療とリハビリテーション。ブラキシズム（歯ぎしり、口腔習癖）、睡眠時無呼吸症候群（口腔内装置作製）など。

［主な検査］

■インプラント検査：補綴治療終了時のイメージを術前模型上に作製し、CT写真上に再現することで、より詳細な手術計画を立てます。

■顎関節症検査：咀しゃく筋・顎関節の圧痛検査、顎運動検査、咬合検査、顎関節・顎のX線検査、心理学的検査、神経学的なスクリーニング検査など

■顎口腔機能検査：咀しゃく能率検査などの各種口腔機能のスクリーニング検査や精密検査

［主な治療］

歯冠修復と全部・部分床義歯による一般的な歯科補綴治療、インプラント補綴治療（再生治療を含む）、CAD/CAMによる歯冠修復、補綴前歯周外科、高齢者の特徴を考慮した補綴治療、顎関節症に対する保存的治療、口腔腫瘍・口唇口蓋裂の方に対する顎顔面補綴治療、ブラキシズム・睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置による治療、スポーツ歯科（マウスガード）など。

［学会施設認定］

日本補綴歯科学会、日本口腔インプラント学会、日本顎関節学会、日本口腔顔面痛学会

咬合補綴科
（口腔機能修復科）

健康の原点となる口腔の機能を回復することや、笑顔の原点となる歯の美しさの改善を行う診療科です。歯の欠損にはブリッジや義歯だけではなく、インプラント治療による機能回復を行います。また、審美性の回復の治療には、セラミックを用いた治療を行っています。

科長　鮎川保則

ホワイトニング治療前後の測色による評価

［得意分野］

咀しゃく機能の回復：歯質と歯の欠損に対して冠（クラウン）、ブリッジや義歯だけでなく、インプラント治療により口腔機能の回復を行っています。とくに、骨欠損が著しい症例には口腔外科と連携して、最新の治療を行っています。また、歯や顎の欠損や咬合の不具合から起因する口腔・顔面領域の不調和を回復するための治療を行い、治療前後の咀しゃく能率や顎運動を測定することで、客観的に提示することも可能です。

［診療体制・診療方針］

歯科医師は日本補綴歯科学会指導医や専門医を含め各種専門性を優先し、患者さんの主治医として担当しています。歯科医師としての理想治療でなく、インフォームドコンセントを行うなかで、患者さんの満足度を最終的な評価とする治療に携わっています。

［対象疾患・主な治療］

■冠、ブリッジ、義歯：う蝕や破折などで歯質や歯が欠損したときに金属、レジン（プラスティック）、陶材などを用いて歯の形態を回復し、機能や審美性を回復します。デジタル機器を用いて型取りをし、削り出しで冠を製作する機械（CAD/CAM）を導入しており、高度な治療に対応しています。

■インプラント：歯の欠損部の歯槽骨にインプラント（人工歯根）を埋入して咬合の回復を行います。骨の重度の欠損には骨移植を含めた先進医療としてインプラント治療を行っています。

■マウスピース：顎関節症やスポーツ時の傷害予防などのためのマウスピース、睡眠時無呼吸症候群や歯ぎしりを防ぐためのナイトガードの作製を行っています。

■顎顔面補綴：腫瘍の手術などで普通の義歯ではうまくいかないような特殊な義歯、オブチュレーター、プロテーゼの製作を行っています。

［主な検査］

■口腔機能検査：う蝕や歯周病、加齢、全身疾患などさまざまな要因によって口腔機能が低下している病態を口腔機能低下症といいます。口腔機能の維持は全身的な健康状態と密接に関係しているため、口腔衛生、口腔乾燥、舌口唇運動機能、舌圧検査、咬合力検査、咀嚼能率検査、嚥下機能検査といった口腔機能低下症の診断基準となる検査を積極的に行い、適正に指導、管理していくことで口腔機能低下症からの回復を目指した治療を行っています。

■コンピュータ解析を利用したインプラント術前検査：CTのデジタル情報をコンピュータシミュレーションにより解析し、診査・診断や患者さんの理解を得るために利用しています。

顎口腔外科
（口腔顎顔面外科）

大診療科として、当科は顔面口腔外科と協力して口腔外科的疾患全般の診療にあたっています。口腔顎顔面の腫瘍、外傷などの手術から抜歯などの小手術といった外科的治療はもとより、口腔粘膜疾患、ドライマウス（口腔乾燥症）、摂食・嚥下障害、口唇口蓋裂、発音言語障害などの口腔内科的な治療にも携わる守備範囲の広い診療科です。

科長　川野真太郎

毎週金曜日の合同手術カンファレンス風景

［得意分野］

口腔、顎、顔面の疾患、とくに口腔腫瘍に対する手術による外科的治療や、口腔粘膜疾患、ドライマウス、摂食・嚥下障害などに対する口腔内科的治療を中心に、他科との十分な連携のもとで包括的治療を行います。口唇口蓋裂は出生前よりカウンセリングを行い、出生日から治療をスタートします。

［診療体制］

日本口腔外科学会専門医と指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医を中心に診療を行っています。また、福岡市歯科医師会休日診療支援をはじめ、土日祝日の急患にも対応しています。さらに、他の歯科外来と協力した専門外来（口腔腫瘍外来、ドライマウス外来、摂食・嚥下機能支援外来、言語療法外来、顎顔面補綴外来など）があります。

［診療方針］

紹介医と情報交換を緊密に行い、正確で迅速な診断、科学的根拠に基づいた的確な治療をするように心がけています。患者さんやご家族にわかりやすく説明し、十分な理解と納得の上で治療を行うように努めています。また、他科と十分に連携して、専門性を活かしたチーム医療を行っています。

［対象疾患］

悪性腫瘍、良性腫瘍、顎骨再建、のう胞、唾液腺疾患、外傷（顎顔面の骨折、歯の外傷や舌や口唇などの軟組織損傷）、智歯および埋伏歯抜歯、口腔粘膜疾患、ドライマウス、口唇口蓋裂、顎変形症、顎関節疾患、歯科インプラントおよび補綴前外科処置など。

［主な検査］

画像検査（単純Ｘ線、CT、MRI、唾液腺造影、超音波検査、PET、嚥下造影検査など）、血液検査、ドライマウスに関する検査、摂食・嚥下機能検査、発音言語機能検査、味覚検査、知覚検査、金属アレルギー検査など

［主な治療］

■手術：悪性腫瘍、良性腫瘍、組織欠損の顎骨再建、口唇口蓋裂、抜歯、のう胞、唾液腺疾患、外傷、顎変形症、歯科インプラントおよび補綴前外科処置に関する手術を全身麻酔下に行っています。また、静脈内鎮静法を用いることもあります。疾患の内容によっては短期入院もしくは日帰りの手術も可能です。

■悪性腫瘍に対する放射線療法や化学療法

■口腔粘膜疾患（関連他科と連携した治療、重症の場合は入院下の治療）、ドライマウス、顎関節症、摂食・嚥下障害、発音言語障害の治療

［学会施設認定］

日本口腔外科学会、日本口腔科学会、日本口腔腫瘍学会、口腔顎関節学会

顔面口腔外科
（口腔顎顔面外科）

口腔には先天あるいは後天異常、外傷、口腔粘膜や顎骨の炎症、腫瘍、のう胞など、さまざまな疾患が生じます。顔面口腔外科は大診療科である口腔顎顔面外科として、顎口腔外科と協力してこれら全ての口腔疾患と、これに起因する組織や欠損機能障害に対して最新医療を行う体制を整えるとともに、以下の得意分野を重点的に担当しています。

全身麻酔下での手術風景

［得意分野］

口唇口蓋裂、顎変形症は重点疾患として専門診療班を設け、系統的に診療を行っています。口唇口蓋裂は出生直後から成人に至るまでの一貫治療を行い、顎口腔機能と望ましい顔面形態の獲得に努めています。顎変形症では矯正歯科と連携して、咬合、骨格の形成のみならず軟組織の形態変化に留意した治療を行っています。口腔悪性腫瘍は腫瘍の制御に加えて顎口腔の機能回復に力を入れ、顎骨再建および歯科インプラントを用いた咬合回復や補綴前外科処置に対応しています。

［診療体制］

日本口腔外科学会認定の口腔外科指導医1名、口腔外科専門医6名、がん治療認定医4名、口腔がん専門医1名を中心に専門的な診療にあたっています。口腔外科疾患に関する急患に対しては休日、夜間を含めた24時間体制で受け付けています。また、医療連携センターを通して、幅広く紹介患者さんを受け入れています。

［診療方針］

顔面口腔外科は院外からの紹介を数多く受け入れています。そのため、紹介医との情報交換に努め、患者さんやご家族に対してわかりやすく説明し、十分に納得の上で手術や治療を行っています。また、疾患によっては院内他科（医科・歯科）と緊密な連携をとり、患者さんにとって最適な治療を行うよう心がけています。

［対象疾患］

口唇口蓋裂、顎変形症（下顎前突や後退、顔面非対称など）、顎骨再建、歯科インプラントおよび補綴前外科処置（以上得意分野）、口腔悪性腫瘍（舌癌、歯肉癌など）、顎顔面外傷（顎顔面の骨折、歯の外傷や舌や口唇などの軟組織損傷）、唾液腺疾患、顎関節疾患、のう胞、良性腫瘍、口腔粘膜疾患、智歯および埋伏歯抜歯、歯根端切除、インプラント矯正など

［主な検査］

Ｘ線検査（単純Ｘ線、パノラマ、デンタル、唾液腺造影など）、CT、MRI、超音波検査、PET、血液検査（血液像、生化学、ウイルス抗体価など）、唾液分泌量測定、金属や歯科麻酔薬などのアレルギーテスト、生検、VF（嚥下造影検査）

［主な治療］

口唇口蓋裂一貫治療、仮骨延長術を含むさまざまな顎矯正手術を行っています。口腔悪性腫瘍は病期によって手術単独、あるいは放射線や化学療法の併用を考慮しています。術後の口腔機能を重要視し、遊離あるいは有茎皮弁を用いた口腔軟組織、硬組織再建術はもちろん、義歯補綴科・咬合補綴科との連携のもとにインプラントや顎補綴を、看護師、言語聴覚士の協力のもとに摂食嚥下、言語指導を系統的に行っています。

［学会施設認定］

日本口腔外科学会、日本口腔科学会、口腔腫瘍学会

歯科麻酔科
（口腔顎顔面外科）

歯科麻酔科は、歯科領域での全身麻酔・静脈内鎮静法の施行・有病者の歯科治療時のモニタリングなどを行っています。

科長　横山武志

全身麻酔下での歯科治療

［得意分野］
全身麻酔、静脈内鎮静法、モニタリングなど口腔外科処置や歯科治療時の全身管理

［診療体制］
歯科麻酔科外来では、全身麻酔器を装備した歯科処置室（2室）で、全身麻酔や静脈内鎮静法を行っています。さらに手術室における口腔外科手術や歯科治療の麻酔も担当しています。日本歯科麻酔学会指導医1名・専門医3名・認定医1名で、歯科麻酔科外来（北棟5F）および手術室（南棟3F）、インプラントセンター（外来診療棟4F）で、専門的な診療を行っています。

［診療方針］
歯科領域の疾患に対する手術や苦痛を伴う検査を行う際に、全身麻酔法や静脈内鎮静法を用いて、不安や苦痛を除くことにより各症例のストレスを十分に軽減し、快適な治療環境を提供します。各症例の全身状態を十分に把握し、必要なモニタリングを行い、呼吸や循環、代謝などの管理を行うことで、安全に治療ができるように配慮します。

［対象疾患］
■全身麻酔、静脈内鎮静法、全身管理：口腔外科手術全般、歯科恐怖症、有病者、障がい者（児）、歯科治療非協力児、歯牙欠損のインプラント手術など

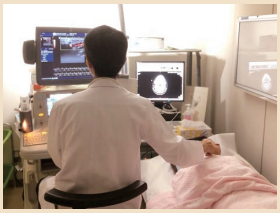
［主な治療］
■全身麻酔：口腔外科手術の際の全身麻酔、乳幼児や障がい者（児）の歯科治療時の全身麻酔（日帰り全身麻酔を含む）
■静脈内鎮静法：口腔外科、インプラント、歯科治療時の鎮静（歯科恐怖症や有病者あるいは苦痛の大きな処置の場合、静脈内鎮静法を併用する事でストレスが軽減され、快適に治療を受けていただけます）
■モニタリング：重度の全身疾患がある患者さんの歯科治療中のモニタリング（治療時に、歯科麻酔科医がモニター監視を行い、患者さんの変化にすぐに対応できるようにします）

［学会施設認定］
日本歯科麻酔学会

口腔画像診断科
（口腔包括診療科）

当科は口腔、顎顔面、頭頸部の疾患に対する画像検査と診断が専門です。任意断面再構成画像や3次元表示画像も作成します。放射線治療後の口腔内管理なども行っています。

科長　吉浦一紀


超音波検査風景

［得意分野］
口腔・顎骨・顔面・頸部領域の病変や、咬合・咀しゃく・嚥下にかかわる疾患に対する各種画像検査（「主な検査」参照）と診断を行っています。CT検査では精密なスキャンと再構成画像作成により、疾患の鑑別や原因の特定を行います。悪性腫瘍ではCTで検出されるリンパ節に対し、さらに超音波による精密検査を行います。放射線部と共同で口腔がんに対し、放射線障害防止のためのスペーサーを応用した放射線治療と、患者さんの口腔内管理を行っています。

［診療体制］
日本歯科放射線学会の指導医および専門医4名が専門的な診療にあたっています。

［診療方針］
口腔・顎骨・顔面・頸部領域のあらゆる疾患に対して、高精細、かつ効率的で高度な画像検査と正確な診断を、つねに目標としています。依頼医のニーズに合わせたきめ細かな検査と正確な診断を行います。

［対象疾患］
口腔・顎骨・顔面・頸部領域の腫瘍・炎症・外傷・のう胞・奇形・変形など、あらゆる疾患を対象としています。

［主な検査］
■一般エックス線撮影検査：歯・顎のほか、頭部規格撮影などの一般撮影検査
■CT検査：口腔・顎骨・顔面・頸部領域の疾患に対するCT検査。医科用および歯科用（コーンビーム）CTを利用したインプラント検査
■超音波検査：頭頸部領域の軟組織疾患に対する超音波検査
■MRI診断：口腔・顎骨・顔面・頸部領域の疾患に対するMRI画像の読影・診断
■造影検査：唾液腺疾患に対する、専用のカテーテルを挿入して行う唾液腺造影検査。摂食・嚥下機能を評価するための咽頭造影検査

［主な治療］
■頭頸部腫瘍に対する放射線治療患者の口腔管理

［学会施設認定］
日本歯科放射線学会

口腔総合診療科

（口腔包括診療科）

口腔総合診療科は、一般歯科全般にわたる治療を行っています。患者さんは複数の専門診療科を行き来する必要がなく、一つの診療室で総合的に治療を受けることができます。治療終了後は定期的な口腔管理を実施します。

科長　和田尚久

診療風景

［得意分野］

う蝕や歯周病の予防処置と治療、抜歯（智歯の抜歯を含む）、その他の外科小手術、金属冠・ブリッジ・義歯による補綴治療、顎関節症の治療などの歯科全般にわたる治療を行います。周術期の患者さんの口腔ケアなども行っています。

［診療体制］

■保存治療（う蝕や歯周病）、補綴治療（金属冠・ブリッジ・義歯）、口腔外科、顎関節症治療の各専門医がチームを組んで総合的な診療を行うため、患者さんが複数の診療科を移動する必要はありません。高度に専門的な治療を必要とする場合や、重篤な全身疾患がある場合は専門診療科と密接な連携をとり、患者さん中心の歯科医療を実施しています。

■臨床研修歯科医の受け入れと教育・指導は、当科が中心となって行っています。

■周術期口腔ケアセンターと連携して、手術や放射線・化学療法前後の患者さんの口腔ケアを行っています。

［診療方針］

初診日に主治医を決め、口腔内検査とX線検査を行い、治療計画を立案し治療を開始します。治療終了後は定期的に口腔内の診査、ブラッシング指導、口腔清掃を行い、口腔の健康を管理します。

［対象疾患］

一般歯科疾患（う蝕、歯周病、歯髄炎、根尖性歯周炎、変色歯、歯の破折、歯の欠損、智歯周囲炎、顎関節症など）

［主な検査］

■X線検査：口内撮影法、口外撮影法により、う蝕や歯周病の進行の程度を調べます。必要に応じてCT検査を行い、罹患歯や顎骨病変の診断をします。

■歯周組織検査：歯周ポケットの深さや動揺度の測定を行い、染色液で歯垢を染め出して歯垢の付着状態を調べ、歯周病の予防と管理を行います。

■口腔機能検査：咀しゃく機能、咬合力、唾液量、舌や口唇の運動機能、嚥下などの評価を行います。

［主な治療］

■一般歯科治療：う蝕・歯周病・補綴治療など

■歯周外科処置：歯周病の治療では必要に応じて、歯肉粘膜剥離掻爬術や歯周組織再生誘導法を行っています。

■外科小手術：保存困難な歯・智歯・埋伏歯の抜去、マイクロスコープを使用した歯根尖切除等を行っています。

■顎関節症治療：スプリント療法やマイオモニターなどを用いて、顎の痛みや開口障害の治療を行っています。

■レーザー治療なども行います。

■周術期口腔ケア：さまざまな病気の治療（手術、化学療法や放射線治療）の患者さんに対して、入院・手術・回復期の口腔ケアを行い、合併症予防を行っています。

［学会施設認定］

日本歯科保存学会、日本補綴歯科学会、日本総合歯科学会

高齢者歯科・全身管理歯科

（口腔包括診療科）

歯科治療を行う上で問題となる、基礎疾患がある患者さんが来院します。入院または通院で、内科的な治療中または外科的な手術前後の患者さんに対し、医科と連携を取りながら、包括的な歯科治療を行っています。

科長　柏崎晴彦

診療風景

［得意分野］

医科主治医と連携を取りながら、抜歯、保存治療、補綴治療など歯科治療全般を行い、患者さんの口腔機能の回復と維持を目指しています。また入院患者さんへの往診による口腔ケアの支援、重症感染症の患者さんの歯科治療にも取り組んでいます。

［診療体制］

スタッフ全員がチームを組んで包括的な歯科治療を行っています。医科から紹介された患者さんは、診査の後で必要があれば応急処置を行います。その後の治療は医科主治医とさまざまな点について協議を行った上で、次回から計画診療に入ります。

［診療方針］

患者さんの医科での治療進行に合わせて、体調や臨床データに配慮しながら歯科治療を進めていきます。口腔内感染源の除去と口腔機能の維持に重点を置き、安全で患者さん中心の歯科医療を実践するため、カンファレンスで治療方針を検討しながら診療に取り組んでいます。

［対象疾患］

基礎疾患がある患者さんの歯科治療全般に対応しますが、とくに、弁置換術、冠動脈バイパス術、化学療法、放射線療法、臓器移植などの周術期において、術前に口腔内感染源を精査し、感染源の除去と咀しゃく機能の回復、専門的口腔ケアと口腔衛生指導を行います。がんの治療中に発症する口腔粘膜障害の予防と治療を病室への往診でも行います。

［主な検査］

■X線検査：歯科用口内撮影法、パノラマX線写真、顎関節撮影Water's撮影法（上顎洞炎）、CT（顎骨病変）

■歯周組織検査：歯周ポケットの深さ、出血、排膿、動揺度

■細菌簡易培養：口腔カンジダ検査

■口腔機能検査：咀しゃく機能測定、舌圧測定

［主な治療］

■一般歯科治療：う蝕治療、歯周基本治療、補綴治療（クラウン・ブリッジ、義歯）

■口腔外科小手術：抜歯、歯根端切除術など

■レーザー治療：口腔粘膜障害、消炎処置、知覚過敏

［学会施設認定］

日本有病者歯科医療学会、日本老年歯科医学会